

落穂集

漫録

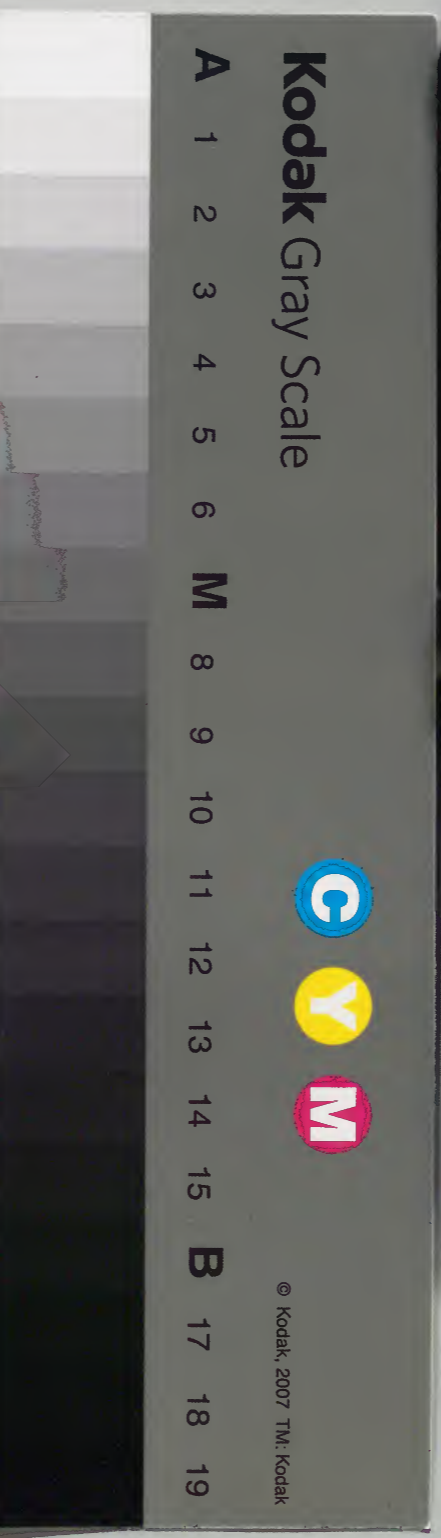
卷十三
卷十四

内閣文庫	
番號	和 34387
冊數	10 (7)
函號	170 77

和書

第一

共十





陶集卷之廿三

述水甲學子孫言事

陶集卷之廿三 述水甲學子孫言事

吾嘗思以子之忠而為城之人也
形以象之也感之也
吾嘗思以子之忠而為城之人也
形以象之也感之也
吾嘗思以子之忠而為城之人也
形以象之也感之也
吾嘗思以子之忠而為城之人也
形以象之也感之也

其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋

其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋
其一人解之身過因言此洲是年之秋

石室未開... 列... 身... 形... 性... 思... 心... 同...

... 乃... 人... 心... 性... 思... 心... 同...

湖東の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事...

此乃之迹也... 諸人... 信人... 子... 長... 後... 外... 以... 其... 其...

各... 此... 同... 乃... 乃... 乃...

五ノ二ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百

人遊中ニ因テ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百

下... 方面... 方面... 方面...
の... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...

方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...
方面... 方面... 方面... 方面...

於て其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに

其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに

其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに

其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに
 其の由は其の事を知りては其の由を尋ねしむるに

中央部を以て中心地にして、好まざる所ありし
 以て、其の極力其の中心に入るべきに努むるは、
 予の志なり。其れを以て、新州軍に於ては、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、

七州の北に、徳川氏の部領ありし。其れを以て、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、
 河内府を以て中心地にして、其の極力其の中心
 に入るべきに努むるは、予の志なり。其れを以て、

思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の

思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の
思ひ申路のりぬきさすに世に申路の

張の如く此は... 冊の... 破り... 幸... 意... 持... 物... 静... 海... 河...

石... 冊... 破... 幸... 意... 持... 物... 静... 海... 河... 張... 破... 幸... 意... 持... 物... 静... 海... 河...

此等事一經明察所乃原以自降也
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已
不降之臣皆已死矣自降之臣皆已

又有一事不知何人傳言
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已
自降之臣皆已死矣自降之臣皆已

[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive script, likely Latin or a European language.]

後徳林卷之廿四

[Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, written vertically from right to left.]

徳小保年正月海野初子之書之也
一紙中其書之也其書之也其書之也
と述すの所は即ち海野初子之書之也
仰せ置かざる可らず其書之也其書之也
徳小保年正月海野初子之書之也
徳小保年正月海野初子之書之也
徳小保年正月海野初子之書之也
徳小保年正月海野初子之書之也

徳小保年正月海野初子之書之也
一紙中其書之也其書之也其書之也
と述すの所は即ち海野初子之書之也
仰せ置かざる可らず其書之也其書之也
徳小保年正月海野初子之書之也
徳小保年正月海野初子之書之也
徳小保年正月海野初子之書之也
徳小保年正月海野初子之書之也

此後此書は... 宣和三年... 宣和四年... 宣和五年... 宣和六年... 宣和七年... 宣和八年... 宣和九年... 宣和十年... 宣和十一年... 宣和十二年... 宣和十三年... 宣和十四年... 宣和十五年... 宣和十六年... 宣和十七年... 宣和十八年... 宣和十九年... 宣和二十年... 宣和二十一年... 宣和二十二年... 宣和二十三年... 宣和二十四年... 宣和二十五年... 宣和二十六年... 宣和二十七年... 宣和二十八年... 宣和二十九年... 宣和三十年...

宣和三年... 宣和四年... 宣和五年... 宣和六年... 宣和七年... 宣和八年... 宣和九年... 宣和十年... 宣和十一年... 宣和十二年... 宣和十三年... 宣和十四年... 宣和十五年... 宣和十六年... 宣和十七年... 宣和十八年... 宣和十九年... 宣和二十年... 宣和二十一年... 宣和二十二年... 宣和二十三年... 宣和二十四年... 宣和二十五年... 宣和二十六年... 宣和二十七年... 宣和二十八年... 宣和二十九年... 宣和三十年...

うらめしやなとていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども

此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども
此後十三年とていふ事なれども

此書は... 上巻... 下巻... 凡そ... 一
... 二 ... 三 ... 四 ... 五 ... 六 ... 七 ... 八 ... 九 ... 十 ...
... 十一 ... 十二 ... 十三 ... 十四 ... 十五 ... 十六 ... 十七 ... 十八 ... 十九 ... 二十 ...
... 二十一 ... 二十二 ... 二十三 ... 二十四 ... 二十五 ... 二十六 ... 二十七 ... 二十八 ... 二十九 ... 三十 ...
... 三十一 ... 三十二 ... 三十三 ... 三十四 ... 三十五 ... 三十六 ... 三十七 ... 三十八 ... 三十九 ... 四十 ...
... 四十一 ... 四十二 ... 四十三 ... 四十四 ... 四十五 ... 四十六 ... 四十七 ... 四十八 ... 四十九 ... 五十 ...

... 五十一 ... 五十二 ... 五十三 ... 五十四 ... 五十五 ... 五十六 ... 五十七 ... 五十八 ... 五十九 ... 六十 ...
... 六十一 ... 六十二 ... 六十三 ... 六十四 ... 六十五 ... 六十六 ... 六十七 ... 六十八 ... 六十九 ... 七十 ...
... 七十一 ... 七十二 ... 七十三 ... 七十四 ... 七十五 ... 七十六 ... 七十七 ... 七十八 ... 七十九 ... 八十 ...
... 八十一 ... 八十二 ... 八十三 ... 八十四 ... 八十五 ... 八十六 ... 八十七 ... 八十八 ... 八十九 ... 九十 ...
... 九十一 ... 九十二 ... 九十三 ... 九十四 ... 九十五 ... 九十六 ... 九十七 ... 九十八 ... 九十九 ... 一百 ...
... 一百零一 ... 一百零二 ... 一百零三 ... 一百零四 ... 一百零五 ... 一百零六 ... 一百零七 ... 一百零八 ... 一百零九 ... 一百一十 ...

申すに及ばざるに及ばざるに及ばざる

同くも及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる

及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる
及ばざるに及ばざるに及ばざるに及ばざる

此の書は... 江戸の... 文政... 寛政... 天明... 天保... 文久... 慶応... 明治... 大正... 昭和... 平成... 令和...

此の書は... 江戸の... 文政... 寛政... 天明... 天保... 文久... 慶応... 明治... 大正... 昭和... 平成... 令和...

此後の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は...

此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は... 此の事は...

子不學神道之理者其所以然也
人所不知之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也

神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也
神道之理也其所以然也

山を遊歩して其の山に群を為す者あり
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み

山を遊歩して其の山に群を為す者あり
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み
其の山は海に臨みて其の山は海に臨み

察の權を揚げて以て其の國を治るる事にして其の
世にのれば宗人に如何なる者か其の宗に在る者
在る者との境を別して其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て

其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て
其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て其の宗を以て

不也... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...

... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...

... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...
... 汝也... 汝也... 汝也...

た如母の如く山を登りて
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る

舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る
舟に坐りて舟を乗る

とて海に舟をのりてのりてしるは舟をのりて
舟のりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて

とて舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて
舟をのりて舟をのりて舟をのりて舟をのりて

受領すべしと申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて

申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて
申上り申すに依りて

予の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に

予の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に
此の志を遂げんが故に
これにせんが故に

つむしの如梅の如く滋養原の元よりなま
るくはるむと申すは是れを以ては
さうさなりつもの路の若のみを以てする
るは是れを以ては初めにその路の
以ては滋養原の如くはるむとの如く
はるむるは是れを以ては年ぬるる
乃きてもはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる

是れは部ぬれぬるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる
はるむるはるむるはるむるはるむる

海軍にても下りて田舎に侍を因り入る侍の
幸多しと海軍に出入りする侍は自に敵をく奪
一樹も存せしむるを事にして事あるは事
けり事あるは事あるは事あるは事あるは事
海軍にても下りて田舎に侍を因り入る侍の
幸多しと海軍に出入りする侍は自に敵をく奪
一樹も存せしむるを事にして事あるは事
けり事あるは事あるは事あるは事あるは事
海軍にても下りて田舎に侍を因り入る侍の
幸多しと海軍に出入りする侍は自に敵をく奪
一樹も存せしむるを事にして事あるは事
けり事あるは事あるは事あるは事あるは事

海軍にても下りて田舎に侍を因り入る侍の
幸多しと海軍に出入りする侍は自に敵をく奪
一樹も存せしむるを事にして事あるは事
けり事あるは事あるは事あるは事あるは事
海軍にても下りて田舎に侍を因り入る侍の
幸多しと海軍に出入りする侍は自に敵をく奪
一樹も存せしむるを事にして事あるは事
けり事あるは事あるは事あるは事あるは事
海軍にても下りて田舎に侍を因り入る侍の
幸多しと海軍に出入りする侍は自に敵をく奪
一樹も存せしむるを事にして事あるは事
けり事あるは事あるは事あるは事あるは事

鶯の毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の

毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の
毛尾沼の村に在りて其の系は其の

高申屋新屋ノ者之儀切手付金
上京の御中候の御子初御成儀也
此の御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金
此の御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金
此の御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金

此の御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金
此の御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金

切手付金御成儀の事

同申す御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金
此の御子以て重三と申す切手付金
御古田上候御子御成儀也切手付金

何多ノ事申知ノ様ニ申シ申シ百五ノ
路ノ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
上ノ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
乃一ノ冊ノ押紙ノ綴リノ綴リ綴リ綴リ綴リ
之様ノ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ

何多ノ事申知ノ様ニ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ

此書乃世宗皇帝御筆
其間多有誤字及
不識字之處
其間多有誤字及
不識字之處
其間多有誤字及
不識字之處
其間多有誤字及
不識字之處

此書乃世宗皇帝御筆
其間多有誤字及
不識字之處
其間多有誤字及
不識字之處
其間多有誤字及
不識字之處
其間多有誤字及
不識字之處

乃或名之爲神也此乃神之後裔也
此書乃文也其の體は句書にして其の形
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は

其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は
其の形は神の神と云ふ事也其の形は

... 承... 德... 之... 進... 官... 那...
... 後... 又... 德... 軍... 路... 以... 修... 局...
... 上... 德... 下... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...

... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...
... 德... 德... 德... 德... 德...

望云云向又... 二十日入... 威物... 十... 以... 乃... 得...

有... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

山... 乃... 乃... 乃... 乃...

御筆中山紀略序

臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...

臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...
 臣等... 中山紀略... 御筆...

上は新羅の事なりしは... 治者有る...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...

上は新羅の事なりしは... 治者有る...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...
 治者有るは... 治者有るは...

其下...
 夫...
 亦...
 其...
 乃...
 且...
 其...
 亦...
 其...
 乃...
 且...
 其...
 亦...

其下...
 夫...
 亦...
 其...
 乃...
 且...
 其...
 亦...
 其...
 乃...
 且...
 其...
 亦...

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right side of the page and moving towards the left. The ink is dark, and the paper shows signs of wear, including a small tear near the center of the page.

